

人間行動学科

地理学コース

Geography

人間行動学科

教育学コース

Education

地理学コースについて

地理学は人間の生活する地球の表面の「空間」「景観」「場所」の形態、構造、過程を研究する学問です。「空間」や「景観」「場所」というものは人間がつくり上げてきた組織、構築物、意味体系であり、家屋や道路、工場、その他の人間活動のための諸物から成り立っています。

地理学コースでのカリキュラムでは、量的データ・質的データを扱う学習の他にも、野外調査実習や報告書作成などを行なうため、将来、社会に出たとき役に立つような様々なスキルを身につけることができます。また「空間」「場所」「地理」という視点のもとで、自分の興味に沿った研究に取り組むことができ、卒業論文では多種多様なテーマを扱うことができます。自分はどうなことに興味があるのか、いろんな視点を持ち、物事を広く見ながら考えてみてください。

教育学コースについて

教育学は、社会のいたるところで行なわれている営みである教育を研究する学問です。「教育学部」ではなく、あくまで「文学部」に属する教育学コースでは、学校教育のみに研究対象は限定されていません。社会教育や家庭教育、広くは生涯学習と、様々な教育があつたことが出来ます。それに対応するため、5つの異なる専門分野の教員があり、集団指導の形で卒業論文までの研究を支えます。教育学コースの門戸は広く開かれています。教育にかかわりのない人生はないからです。一人旅をすること、読書をすることでさえも教育とかかわっています。学校教育を研究したい方は勿論、「学び成長する人間」について関心のある方を私たちは歓迎します。

先生の研究

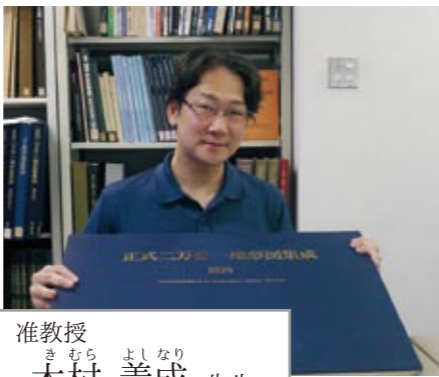
私はドイツの学校経営の研究をしています。たとえば、日本でいう職員会議を、ドイツでは学校会議と呼んでおり、子ども・保護者・教員の代表者がそれぞれ参加し、共同決定を行なっています。教員だけ、校長だけで物事を決めることは法律で禁じられているのです。日本の公教育制度は国際的には高い評価もある一方、本来、子どもが享有しているはずの権利が尊重されていないと、国連機関から批判勧告を受けています。このような「民主主義」や「自律」への教育のためには、学校の可能性と限界の両面に焦点をあて研究する必要を感じています。教育は人間の営みを対象にするため、実際に学校はじめ様々な教育機関などと協力しながら、研究を進めることを大切にしています。



准教授 辻野 けんま 先生

○コースでの学び
子供の貧困や、自分の人生の中で最も印象に残った学びを考える授業を受けています。他にも教育の歴史に関する授業、各国の教育観や教育法の比較を行なう授業もあります。教育を様々な角度から学べ、教師としての将来に役立つと思います。

○コースの雰囲気・PR
先生と学生の距離が近く、親身な指導を受けられます。教育という身近なテーマを扱うので学生間の意見交換も非常に活発で、充実した大学生活が送れます。とにかく、授業が楽しいのが最大の魅力だと思います。



准教授 木村 義成 先生

○コースを選んだきっかけ
元々高校の社会科が好きでしたが、1回生で受けた人間行動学概論という授業と文学部のコースガイダンスの説明によって、さらに地理学に興味を持ちました。地理学の研究手法である、実際に自分で歩いて現地を調査するフィールドワークに魅力を感じたのが決め手です。

○コースでの学び
市大の地理学コースでは、人文地理を中心に研究が行なわれています。フィールドワークや統計資料をもとに、一見地理学とは結び付かないと思われるような「セクシュアリティ」「人種」などの様々な問題についてあつかうことができます。

○コースの雰囲気・PR
地理学コースで学ぶと、「まちを見る視点」が変化することによって、普段暮らしているまちや旅行先でこれまで見えなかったものが見えるようになり、日々の生活が楽しくなると思います。地理学コースでは自分なりの「まちを見る視点」を獲得してください。

先生の研究

私の専門は地理情報科学で、どちらかというと量的なデータをあつかうことが多いです。主に取り組んでいることは「医療」と「地理」を結びつける研究です。たとえば、新しい救急車をどこかの消防署/分署に配置することになったとします。では、どこに配置すれば良いのか？できるだけ多くの人に對して、できるだけ早く救急車が到着できる地点に配置する必要があります。このように条件を満たす地点を様々な地理的なデータを集め、地理情報システム(GIS)を用いて分析することで割り出すことができます。このような発想は、医療計画のみならず防災計画などにも活用できます。様々な情報を空間的に重ね合わせて、ものごとを考える発想を皆さんにも学んで頂ければと思います。



3回生の 野口 愛心 さん

野口さんへのインタビュー

○コースを選んだきっかけ
教師になるという夢の実現のために最適だと思い、このコースを選びました。教科書での指導に加え、勉強以外の大事なことも教えられる教師になりたいです。そうした目標を持つ私にとって、教育を多角的に考えられるこのコースはまさに理想でした。

○コースでの学び
子供の貧困や、自分の人生の中で最も印象に残った学びを考える授業を受けています。他にも教育の歴史に関する授業、各国の教育観や教育法の比較を行なう授業もあります。教育を様々な角度から学べ、教師としての将来に役立つと思います。

板原さんへのインタビュー

○コースを選んだきっかけ
元々高校の社会科が好きでしたが、1回生で受けた人間行動学概論という授業と文学部のコースガイダンスの説明によって、さらに地理学に興味を持ちました。地理学の研究手法である、実際に自分で歩いて現地を調査するフィールドワークに魅力を感じたのが決め手です。

○コースでの学び
市大の地理学コースでは、人文地理を中心に研究が行なわれています。フィールドワークや統計資料をもとに、一見地理学とは結び付かないと思われるような「セクシュアリティ」「人種」などの様々な問題についてあつかうことができます。

○コースの雰囲気・PR
地理学コースで学ぶと、「まちを見る視点」が変化することによって、普段暮らしているまちや旅行先でこれまで見えなかったものが見えるようになり、日々の生活が楽しくなると思います。地理学コースでは自分なりの「まちを見る視点」を獲得してください。



3回生の 板原 虎ノ介 さん

教員紹介

※2019年度時点

大場 茂明 教授 Shigeaki Oba
都市政策とまちづくり、ドイツ地域研究
「再都市化の進行にともなう地区居住施策の展開 - ハンブルク大都市圏を事例として」(『日本都市学会年報』、日本都市学会、Vol.50、2017)

祖田 亮次 教授 Ryoji Soda
人文地理学、人口移動、資源利用・管理、災害文化、東南アジア地域研究
People on the move: rural-urban interactions in Sarawak (Kyoto University Press and Trans Pacific Press, 2007)

水内 俊雄 教授(兼任) Toshio Mizuuchi
近代都市の社会問題・住宅問題の歴史的研究や、日本・東アジア、欧米の脱ホームレス支援や都市再生に関わる社会地理学的研究。
編著『都市の包容力』(法律文化社、2017)、『グローバル都市大阪の分極化の新たな位相』(都市研究プラザ) ※(本務) 大阪市立大学都市研究プラザ教授

山崎 孝史 教授 Takashi Yamazaki
グローバルな政治経済の変動とローカルな政治・社会運動に関する地理学的研究、沖縄研究。
『政治・空間・場所-「政治の地理学」にむけて』(改訂版) (ナカニシヤ出版、2013)

木村 義成 准教授 Yoshinari Kimura
地理情報システム、保健医療分野におけるGISの応用研究
“Geodemographics profiling of influenza A and B virus infections in community neighborhoods in Japan”, BMC Infectious Diseases, 11:36 (2011)

卒論タイトル例

◆急増する都心居住を支える新しい居住層の実態とマンションコミュニティの現状—大阪市西区を例に—

◆日本におけるハクサイの生産地域の成立と食生活への普及—在来種の衰退状況をふまえて—

◆尾道三部作が創り出す場所へのイメージ—イメージの形成とその影響—

卒論タイトル例

◆裁量労働制から考える教員の働き方についての考察

◆「学びの芽生え」を育む遊び—保育者の援助に着目して—

◆いじめが起きた後に行う対応についての日中の比較研究

教員紹介

※2019年度時点

添田 晴雄 教授 Haruo Soeda
比較教育文化史、教育・学習における話すことと聞くことの研究、特別活動、いじめ問題の国際比較
『文字と音声の比較教育文化史研究』(東信堂、2019)

森 久佳 准教授 Hisayoshi Mori
教育学(教育方法論、カリキュラム論、教師論)
共訳『デュイ・スクール—シカゴ大学実験学校: 1869年~1903年—』(あいり出版、2017)

柏木 敦 教授 Atsushi Kashiwagi
日本教育史、初等教育制度政策史
『日本近代就学慣行成立史研究』(学文社、2012)
共著『教育史研究の最前線II』(百花出版、2018)

辻野 けんま 准教授 Kenma Tsujino
学校がどのような制度的影響をうけながら教育を営んでいるか関心をもちながら、主にドイツを対象に研究
『ドイツの学校は国家とどう付き合ってきたか』末松裕基編著
『現代の学校を読み解く—学校の現在地と教育の未来—』(春風社、2016)

島田 希 准教授 Nozomi Shimada
教育方法論、授業研究
共著『授業研究のフロンティア』(ミネルヴァ書房、2019)

地理学コースにとって「物語」とは？

皆さんは大学で学ぶ地理学にどのようなイメージを持っているだろうか？ 高校までで学ぶ地理学と比較すると、大学で学ぶ地理学は幅広い視点から「地理」を学ぶ。たとえば、大学で学ぶ地理学では、「空間」と「場所」の違いについて幅広い議論を行なっている。大学で地理学を学ぶと、「物語の空間」と表現するよりは「物語の場所」と表現した方が自然な印象を受けるようになる。どうしてだろうか？ 「空間」は「場所」と比較すると、客観的に計測可能な、そして抽象的な意味を持つ言葉である。一方、「場所」は「空間」と比較すると、主観的な、そして具体的な意味合いを持つ言葉である。「物語の舞台」となる「ところ(所)」は、語り手にとっては主観性と具体性を持った「場所」といった方が自然な印象を受けるであろう。皆さんも大抵「空間」と「場所」の言葉の意味を一緒に考えてみませんか。(文・木村先生)

教育学コースにとって「物語」とは？

「物語」と聞くと、絵本や大人がしてくれるお話のように、何らかの創作話がイメージされがちです。あるいは、伝記や小説のような実話を元にしたストーリーであるかもしれませんが、「物語」とは、何となく「他者」のストーリーと認識されがちです。しかし、人にはそれぞれ違った生き方があり、人間それぞれがストーリーをもっています。教育学は、人間がよりよく生きていこうとする営みを対象としていますので、「他者」の物語とあわせて「自己」の物語にも目を向けます。自分がこれまでどのように生きてきたのかや、これからどう生きようとするのかを考えるとなしには、「他者」の生き方を深く理解することもできません。しかしまた、「他者」を知ろうとしなければ実は「自己」を客観的に知ることができません。人間について考えることで、人間相互の結びつきに気づくことも教育学の醍醐味です。(文・辻野先生)

